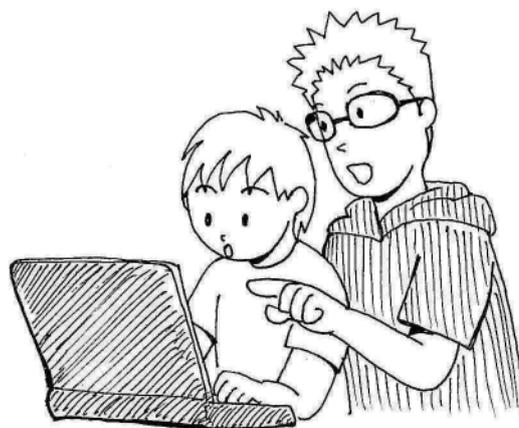
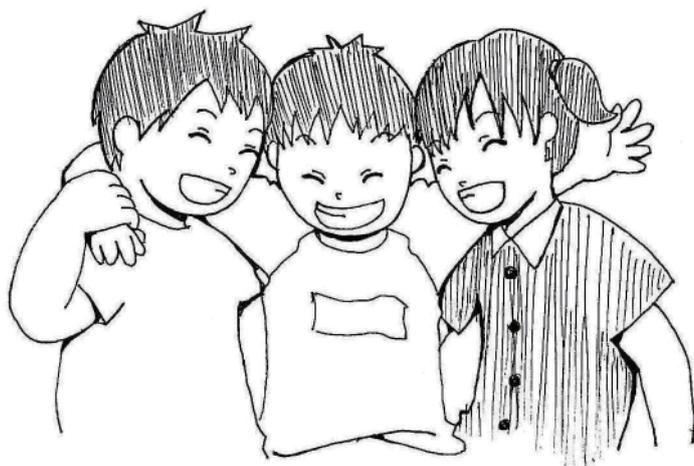
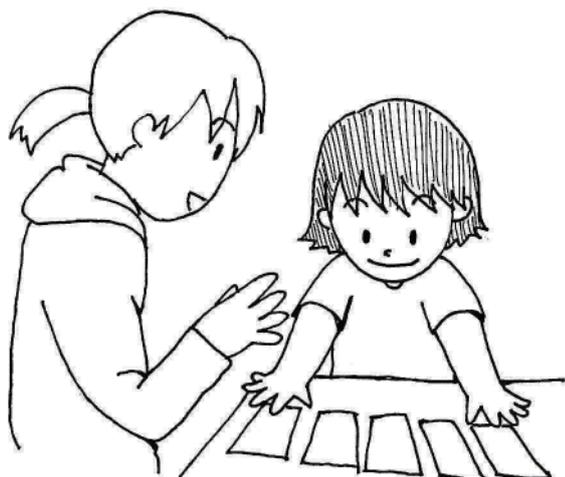


LD・ADHD・アスペルガー症候群など、  
特別な教育的ニーズをもつ  
子どもたちの学び・育ちの場

# 2006-2007

特定非営利活動法人  
教育サポートセンター NIRE 年次報告書



## 【問い合わせ・連絡先】

LD・ADHD・アスペルガー症候群など、特別な教育的ニーズをもつ子どもたちの学び・育ちの場

特定非営利活動法人 (NPO 法人)

に れ  
教育サポートセンター NIRE

142-0053 品川区中延 5-6-14 第一亀田ビル 2F

TEL & FAX: 03-3784-0450



# 特別支援教育元年となった2007年

特別支援教育元年となった2007年は、NIREにとっても大きな飛躍のある年でした。設立2年目にも関わらず、さまざまなつながりが広がり、NIREの認知度は地域で大きく広まったと思います。例えば、相談の件数は増え（週2～3件）、支援を行っている子どもたちの数も大幅に増えました（現在個別学習支援を行っている子どもは約20名）。相談の多くは、「学校の勉強についていけない」「言うことを聞かなくて困っている」「友だち関係がうまくいかない」などどれも深刻です。「特別支援教育」がスタートしたとはいえ、学校現場ではまだまだ具体的な支援が進んでいないことを痛感しました。そういう中で、NIREの役割はますます重要になってきていると思います。

NIREに通う子どもたちは、さまざまな特性を持ちながらも、一人ひとりかけがいのない存在です。子どもたちが持っている力を発揮し、安心して、自信を持って成長することを保障することは、私たちだけでなく地域の大切な役割だと思います。そのためにも、「子どもたち一人ひとりを大切にできる教育をめざす」という理念を持ち、これからも子どもたちと向き合っていきたいと思っています。

事業が拡大するにつれて、さまざまな新しい課題にも直面しました。子どもたちの具体的な成長を保障するためには、個別学習支援だけでは不十分だということです。子どもたちが成長・発達するためには、「仲間とのつながり＝集団の力」が重要であることに気がつきました。そこで、今年度から集団づくり・仲間づくりを目的としたプログラムもスタートさせ、個と集団が有機的につながり、さまざまな角度から子どもたちの成長を支えることを模索中です。集団指導は、これまでの個別指導の経験だけでは対応できず、新たなアイデアや斬新なアプローチが必要となりますが、スタッフが日夜奮闘してくれたおかげで、たくさんの教訓を得ることができました。

この度、この一年の活動報告として「年次報告書」をまとめました。こうした活動を土台にして、これからも子どもたちのために、さまざまな活動を作り出していきたいと思っております。

子どもたちが自信を持って成長できるように、今後ともみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

特定非営利活動法人 教育サポートセンター NIRE

代表 中塚 史行

2008年2月24日



横浜子ども科学館での昼食の様子です。「いただきます」の挨拶もみんなでいっしょに声をそろえます。



夏休みにあった勉強会の様子です。たくさんある夏休みの宿題もみんなと一緒にやらへちゃらでした。



猿島でのチームに分かれてのハイキングの様子です。指令書にそって島内を冒険しました。



デイキャンプの様子です。みんなで協力して火をおこし、ご飯とカレーを作りました。



ポップコーン屋さんでの様子です。みんなで宣伝をし、ポップコーンを袋につめ、販売しました。



毎年行なわれるASスキーでの様子です。コーチに教えてもらい、練習して滑れるようになりました。

# リソースルーム (個別学習指導)

## 「わかった!」「できた!」 勉強することが楽しくなる授業

NIRE の個別学習指導は、学習塾エルムアカデミーと協力して行ない、一人ひとりの特性にあわせてオーダーメイドで実施しています。わかることの楽しさと、自信をもって勉強できるように、さまざまな工夫をしています。以下に、授業の事例を紹介します。

### 【事例1】

Aくん(小2・男)は書くことが苦手なこともあり、漢字の書き取りの宿題が嫌い、進んでやろうとしません。これからますます難しくなる前に、楽しんで漢字に取り組める授業を行ないました。

まずは漢字を構成する部首に興味を持てるように「部首カルタ」(太朗治郎社)を導入しました。「部首カルタ」は部首を遊び感覚で覚えらる教材です。例えば、読み札は「くもがでてあめがふりだす雨冠」のようにとてもリズムカルで、唱えて遊んでいるうちに部首の成り立ちを学べます。また取り札は絵で成り立ちが表現されているので絵を見ているうちに覚えることもできます。

まずは小1・2で習う漢字の部首から取り組みました。1種類ずつ紹介していき、カルタで部首名と部首の形のマッチングを図っていきました。ゲーム感覚で取り組めるため、長時間集中することができ、楽しく多くの部首の名前と形を覚えることができました。お気に入りの部首もでき、部首の学習に興味を持つようになりました。

部首の学習を始めてから、書き取りの宿題では「この漢字の部首は〇〇だよ」と確認しながら進めることができます。漢字の宿題の時間は、くり返し同じ漢字を書くことが多く、書くことが苦手な特性を持つ子どもたちにとって大きなハードルとなっています。「部首カルタ」による学習は、書くことが苦手な子どもたちも、漢字に興味を持ち、たくさんの漢字を楽しく学ぶことができると思います。今後は「部首」「つくり」を意識しながら、バランス良く字を書くことを目標に指導していきたいと思います。(北澤千穂)



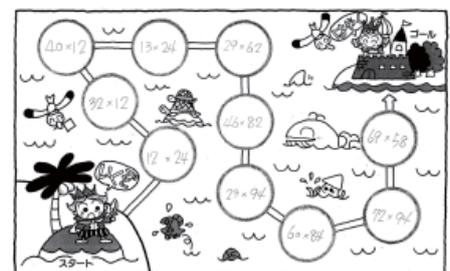
### 【事例2】

Bくん(小4・男)は書くことが苦手です。目立った学習の遅れはありませんが、漢字の書き取り、算数の計算プリントなど、学校の課題にも意欲的に取り組めず、長時間集中することができません。手先の不器用さから、プリントの指定されたスペースにうまく書けず、たくさんの問題が書いてあるプリントは、すぐにめんどくさいと感じてしまいます。

算数の計算が複雑になるにつれ、計算の習熟をはかる必要性が高まりましたが、プリント中心の学校の授業や宿題に対して、どうしても適応できずにいました。学校から出された宿題は家庭ではなかなか取り組めず、トラブルの元となっていました。また、学校の授業も、積極的に参加をしないことが多く、指導に対しても拒絶することが多くありました。

そのため、プリントを使つての計算の習熟は取りやめ、計算問題をすべてそろくゲームにつくりかえました。計算問題をゲームにすることで、面倒くささから開放されたのか、意欲的に取り組むようになりました。また、問題を解く際は、白紙に好きなように書かせ、スペースや字の汚さなどは気にさせないようにしました。書けたことを細かく評価しつづけたところ、少しずつ自信を持つようになり、同時に自分でも書くことの苦手を意識できるようになりました。

現在では、学習時間を細かく調整したり、文字や数字を書く欄を大きくするなど、指導者と相談しながら工夫を行ない、自分から目標をもって文字を書けるようになりました。個別指導の成果は学校でも発揮され、学校の教科授業に積極的に参加するなどの変化があらわれました。(川島加奈子)



# 春・秋の遠足 デイキャンプ お店体験

「友だちができた！」

「みんなで遊ぶと楽しい！」

集団行動が苦手な子、人間関係が苦手な子、コミュニケーションが苦手な子など、いろいろな特性を持つ子がいますが、NIREの遠足やデイキャンプ、お店体験を通じて仲間づくりや集団行動の楽しさを実感してもらいました。今年度始めて取り組んだこれらの企画について報告します。

## ■横浜こども科学館

6月10日（日）参加者11名

天候が悪く、予定していた猿島に上陸はできませんでしたが、電車を乗り継ぎ「横浜こども科学館」に行きました。初めて参加する子も多い中、みんな仲良しになり、楽しい思い出をつくることができました。宇宙船をイメージしたアスレチックで遊んだり、宇宙に関する展示を見学して楽しみました。午後には雨も上がったので、みんなで公園で思いっきり遊びました。

## ■一日キャンプ体験（デイキャンプ）

7月16日（日）参加者14名

台風の影響が心配されましたが、大井ふ頭野外活動広場にて、夏のキャンプに向けた飯ごう炊飯の練習を行いました。薪を使ってカマドでご飯をたく経験は初めての子がほとんどでしたが、子どもたち同士協力し合いながらおいしいご飯をつくることができました。午後は広場でレクレーションを楽しみ、充実した一日となりました。

## ■猿島ハイキング

9月24日（日）参加者14名

6月に雨で上陸できなかった東京唯一の無人島・猿島に再チャレンジしました。ゆるる船もなんのその、2チームに分かれて、協力しあい、ポイントをクリアしながら猿島を一周しました。普段は個別指導のため、集団になれていない子どもたちですが、時間がたつにつれて、ぎこちない会話も、お互いを知るにしたがって仲良くなりました。

## ■ポップコーン屋さん体験

12月16日（日）参加者13名

エルムアカデミー主催のもちつき大会にポップコーン屋さんを出店しました。開店前に接客や会計の練習をしてから本番に臨みました。みんなで協力し熱心に宣伝・販売をしたのでポップコーンはあっという間に売切れてしまいました。また、練習の成果もあり、みんな大きな声で「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」が言えました。

## 子どもたちの感想より

### 楽しかったポップコーン屋さん

私が、ポップコーン屋さんをやって楽しかったことは、先生や友だちといっしょにお店をやったことです。最初は、ポップコーンを持つ係をしました。次に、会計係をやりました。私は、ポップコーンの値段が100円で安いと思いました。本当は200円から500円くらいがいいなと思ったけど、100円でけっこう売れたと思いました。（小5・K.A.さん）

### おいしい！あと2900円だったのに～

みんなでポップコーンを売りましたが、ボクは借金が心配でした。ポップコーンは人気があってすぐに売れてしまいました。ボクは豆がいっぱいあれば目標の10,000円達成したのになぁと思いました。売ることはまっまっ楽しかったです。ポップコーンが売り切れたので飲み物屋さんをしました。コーヒーとジュースを売りました。売上を計算したら、合計7,100円になりました。「あ～くやしいな」と思いました。（小2・K.D.くん）

# 夏のキャンプ

「めちゃめちゃ楽しかった！」

「また来年も行きたい！」

昨年の2倍の参加者となる11名で行なわれた夏のキャンプ。今年は天候に恵まれ、すべてのプログラムを予定通り進めることができました。マスつかみ、川遊び、食事づくり、ハイキング、ローラーすべり台、キャンプファイヤーなど、盛りだくさんの企画を通して、たくさんの思い出とかけがいのない仲間と出会うことができました。

以下、子どもたちがキャンプ中に書いた日誌の一部を紹介します。



## 【子どもたちの感想より】

○川遊びをした後ドラム缶風呂に入るとき最初はイヤだった。だけど、入ってみたら熱かったけど1時間でも入りたくなりました。(小5 Y.H.)

○ボクは5回も川に飛び込みました。最初はこわかったけど、みんなが「行け〜!!」と言ってくれたのでようやく飛び込みました。



## 【子どもたちの感想より】

○ニジマスを手でつかみ取りした。川に入ったとき、最初は冷たかったけどだんだん慣れてきてマスをつかまえた。でも、私は魚が苦手であまり触れなかった。残念!! (小5 S.M.)  
○ニジマスのつかみ取りをして、目標の2匹をつかまえました。友だちや先生もがんばっていました。(小4 K.M.)



## 【子どもたちの感想より】

○夕食作りで玉ねぎを切るとき涙を流したけど、うまいカレーライスができてよかったです。(小5 K.A.)

○流しそうめんをやった。そうめんしか流れてこないはずなのに、トマトとセロリとゼリーとさくらんぼときゅうりとナタデココが流れてきた。(小3 M.T.)

# 公開セミナー・ 専門研修の開催

特別な教育的ニーズを持つ子どもたちの理解や支援のあり方について考える公開セミナーの開催は2回、専門的な技術や指導実践を深めていくための専門研修・事例検討会は合計7回開催しました。専門研修や事例検討会は初めての試みでしたが、「目の前の子どもたちに何ができるのか？」ということに参加者みんなで見え方、非常に好評でした。

## 公開セミナー

1月27日



ジャーナリストの品川裕香さんを講師にお招きして、「嫌な子・ダメな子なんて言わないで！～LD・ADHD・アスペルガー症候群の子どもたちの『いま』『これから』～」というテーマの講演をしていただきました。(参加者 100名)

7月20日



「スクールカウンセラーのじょうずな使い方」というテーマで、大田区のスクールカウンセラーで臨床心理士の廣瀬信慶さんをお招きして、まだまだ馴染みの薄い「スクールカウンセラーの活用法」についてお話を伺いました。(参加者 30名)

## 専門研修・事例検討会

5月13日



学習に困難を持つ中学生の子を事例として、心理アセスメントや指導法を検討しました。

6月17日



LD・ADHD等の子どもたちの心理的疑似体験プログラムを行いました。

## デイジー講習会

第1回 2月18日



森田真一（富山大教授）さんを講師にお招きして、視覚障害者用ソフト「DAISY」の技術指導をしていただきました。

第2回 2月25日



酒井広（元NHKアナウンサー）さんを講師にお招きして、朗読指導をしていただきました。写真は腹式呼吸の指導の1コマ。

# 研究発表 講演会活動

私たちの活動を広げ、さまざまな意見を取り入れてよりよくしていくために、日本LD学会で発表や論文発表を行いました。また、私たちの経験や子どもたちの理解を広げるために、講演会活動も積極的に実施してきました。

以下に紹介した他に、品川区・大田区の小学校での教員研修や、親の会などのグループ、児童センター、保育園など、大小さまざまな場所で講演会活動を行なってきました。

11/23 日本LD学会第16回大会（横浜）  
～25 ポスターセッションで研究発表



「ディスレクシアを主体に一特異的LDへの気づきと支援」をメインテーマに日本LD学会の第16回大会が横浜で開催されました。NIREとしては、ポスターセッションで「発達障害児を支援するNPO法人と小学校との連携—品川区におけるNPOとの連携—」というテーマで研究発表を行いました。NPO法人として、地域の小学校と具体的に連携をし、子どもたちに効果的な支援を行っている実践例としてたいへん注目され、約5時間の発表時間中は見学者は途切れることはありませんでした。

10/6 ワーカーズコープ主催  
～7 全国子育て協同集会分科会で講演



『生きづらさ』を超えて～競争から、共感・協同の子育てを市民の手に～をテーマに開催された全国子育て協同集会の第4分科会「一人ひとりを大切にする輪になあれ」にて、「ちょっと気になる子の理解と支援」というテーマで講演を行いました。学童クラブや保育園の先生方が多く参加していましたが、どの地域でも発達障害についての関心は高く、とても熱心に話しを聞いてくださいました。他にも、保護者が中心となって立ち上げた児童デイサービス「きしゃぽっぽ」の実践報告など、とても興味深い話しも聞けました。

## 【講師を務めた団体・グループ】

- こぐま保育園職員研修（品川区）
- あけぼの保育園職員研修（中野区）
- 大田区立梅田小学校教員研修
- 品川区立延山小学校教員研修

- NPO フォーラム品川「まちづくり cafe」
- 品川区立大井倉田児童センター
- 親の会クレヨン☆しながわ（品川区）
- NPO 文化学習協同ネットワーク（三鷹市）
- 法政大学社会学部教育原理

# 会計報告

2006.10.1 ~ 2007.9.30

前年度に比較して、収入・支出とも大きくなりました。これは、さまざまな取り組みが増えてきたことをあらわしています。助成金としてさまざまな分野から支援を受けることもでき、充実してきた活動を財政的に支えました。DAISY制作のためのパソコン購入や教室整備としてイスや机を新たに購入するなど、備品や学習環境も整えることができました。

## 会計収支計算書

科 目	金 額 (単位：円)
■収入の部	
1. 会費収入（正会員・賛助会員）	60,000
小 計	60,000
2. 事業収入	
(1) 教育支援事業収入	
夏のキャンプ参加費収入	407,000
6/10 横浜こども科学館遠足参加費収入	73,000
7/16 デイキャンプ参加費収入	42,000
9/24 猿島ハイキング参加費収入	36,000
小 計	558,000
(2) 普及・啓蒙事業収入	
特別支援教育フォーラム・会員総会参加費収入	7,500
公開セミナー（2回）参加費収入	109,000
ケーススタディ検討会（3回）参加費収入	25,000
専門研修（3回）参加費収入	28,500
講演会講師料収入	44,850
小 計	214,850
(3) 補助金・助成金等収入	
NHK 厚生文化事業団わかば基金	505,000
丸紅基金	300,000
ドコモ・モバイルコミュニケーションファンド	500,000
キリン福祉財団	270,000
国立青少年教育振興機構こども夢基金（概算払分）	200,000
小 計	1,775,000
(4) 寄付金収入	45,660
小 計	45,660
(5) 銀行利息収入	888
小 計	888
収入合計	2,654,398

科 目	金 額 (単位：円)
■支出の部	
1. 事業費	
(1) 教育支援事業費	
教材費	24,518
春の遠足・秋の遠足・デイキャンプ経費	190,315
DAISY制作器材費	513,545
教室整備費	350,700
夏のキャンプ経費	721,610
小 計	1,800,688
(2) 普及・啓蒙事業費	
ホームページ管理・運営費	30,000
ニュースレター・リーフ・チラシ等印刷費	141,467
公開セミナー経費（2回）	111,856
専門研修・ケーススタディ検討会経費（計7回）	307,572
小 計	590,895
(3) 人材育成事業費	
研修費	135,055
参考図書購入費	55,023
小 計	190,078
2. 管理費	
通信運搬費	137,213
消耗品費	9,540
銀行手数料	1,050
印紙代	1,000
小 計	148,803
支出合計	2,730,464
収支差額	▲76,066
前期繰越金	331,766
次期繰越金	255,700

## 会計財産目録（2007年9月30日現在）

科 目	金額（単位：円）
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金	18,786
普通預金（大東京信用組合荏原町支店）	236,914
流動資産合計	255,700
2. 固定資産	0
固定資産合計	0
資産合計	255,700

科 目	金額（単位：円）
II 負債の部	
1. 流動負債	0
流動負債合計	0
2. 固定負債	0
固定負債合計	0
負債合計	0
正味財産	255,700